第５章　工事図面作成方法

第５章　工事図面作成方法

5.1　適用

(1)　この章は、水道管（導、送、配水管を含む。）及び付属構造物の設計図面並びに完成図面作成についての方法を定めたものである。

(2)　作図一般、記号、線の一般的用法その他この章に定めのないものは､JIS A 0101（土木製図通則)、土木学会「土木製図基準」及びその他関係規格規定によるものとする。

5.2　完成図面の提出

提出する完成図面の作成は、原則、CAD により製図し、監督員が指示した場合は、完成図面を電子媒体で提出するものとする。

5.3　完成図面の大きさ及び紙質

(1)　図面の大きさは、図面紙の仕上がり寸法で JIS P 0138（紙加工仕上げ寸法）のうち、A1 とする。(表 5-1 参照)

(2)　原図の紙質は、良質な白紙を使用すること。

表 5-1　図面の大きさ

単位：mm

大きさの呼び方	A1
縦×横	594×841
外　枠	95%

5.4　図面の分割

(1)　平面図、配管立体図等規定の大きさで作図できない場合は、分割して作成し、その接続表示を明確にすること。

ア　平面図の場合　　A ――― A′、B ――― B′とすること。

イ　配管立体図の場合　① ――― ①′、② ――― ②′とすること。

(2)　配水管と給水管切替の完成図面は、原則として一葉ずつ分けて作成すること。ただし、給水管切替箇所が少ない場合は、同一図面としても良い。

5.5　表示方法

(1)　文字

ア　文字自体の頭部は、紙面の上又は左側方向とする。

イ　文章は、横書きを原則とする。

ウ　漢字は楷書、仮名は平仮名を原則とする。

エ　数字は、アラビア数字を原則とする。

オ　文字の大きさは，A3 に縮小しても容易に判読できる大きさとする。

カ　文字のフォントは、明朝体とする。

(2)　寸法

ア　寸法の記入は、寸法線を中断せず寸法線に沿って寸法線の上側に記入するのを原

則とする。ただし、寸法線が縦の場合には、寸法線の左側に記入する。

イ　円弧の半径を示す寸法線には、弧の側のみ矢をつけ、半径を示す寸法数字の右には、R を付記する。

ウ　円の直径を示す寸法線は、直径の中心線又は基準線に一致しないように引く。

(3)　単位

ア　平面図・配管立体図・オフセット図・給水管切替詳細図の単位はメートルとする。布設延長、切管寸法及びオフセット延長、法線変化記号（既設管との連絡、伏越し等、法線に変化が生じる箇所）の変化量は、小数点第1位（2位四捨五入)、土被り寸法及び離隔距離（クリアランス）に関しては小数点第 2 位（3 位四捨五入）で端数処理すること。

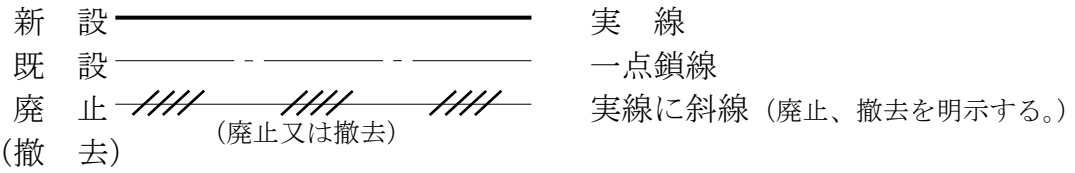
イ　道路復旧図・横断面図の単位はミリメートルとする。道路復旧図、横断面図は、十の位（一の位四捨五入）で端数処理すること。

ウ　口径の単位はミリメートル単位とする。ただし、鋼管、給水栓及びバルブ類についてはA 又はB で表すこともある。

エ　なお、以上のことによりがたい場合は、各図ごとに、又はその都度単位記号を表すこと。

(4)　水道管線種

水道管線種は次のとおりとすること。



5.6　図面の構成

図面の構成は、工事内容に応じて次のとおりとする。なお、詳細図、断面図等は、表示する内容により同一図面にまとめてもよいが、極力重複を避けるように考慮すること。また、給水管切替詳細図は、平面図及び配管立体図を表示すること。

(1) 案内図

工事場所を中心として、道路及び河川、鉄道、主なる建物名等を明記し、一見して当該場所がわかるように表すこと。

(2)　平面図

ア　配管路線には、布設管種、口径、延長及び布設位置等を記入すること。

イ　沿線家屋のうち、給水管を切替える対象家屋については居住者名を表示することとし、目印のための建物名称等はカッコ書きで表示すること。

ウ　道路には、国道、県道等の区別又は路線名を表し、既設管の管種、口径、布設年度を記入すること。

エ　河川には、その名称、流水方向その他必要な事項を記入すること。

(3)　縦断面図

必要に応じて作成するものとする。

(4)　横断面図

道路、河川、橋梁等の横断面に、水道管（新設、既設、廃止)、他の地下埋設物及び構造物の形質、寸法、位置等を表示すること。

(5)　側面図

添架工、水管橋の場合は、管、構造物の形質、寸法、位置等を表示すること。

(6)　詳細図

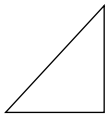
構造物（仕切弁、空気弁室、排水設備等)、舗装復旧工、標準掘削断面図、基礎工、配筋、防護工、加工、取付け、その他の部分詳細を表示すること。

(7)　配管立体図

ア　直管、異形管等の接合位置、防護箇所、施工方法等を平面図に基づき、別表 5-1・5-2 の表示記号により明瞭に作図すること。

イ　配管立体図は、管の寸法に応じて伸縮させることとし、管、弁、栓等の名称は、原則として省略する。

ウ　法線変化記号は、新設法線を●、既設法線を○とし、下記例のとおり表示すること。また、既設管、伏越し箇所、その他必要な箇所には、土被りを記入すること。変化量は、0.1m 単位とし、0.2m 以上から記載すること。（図 5-1 参照）



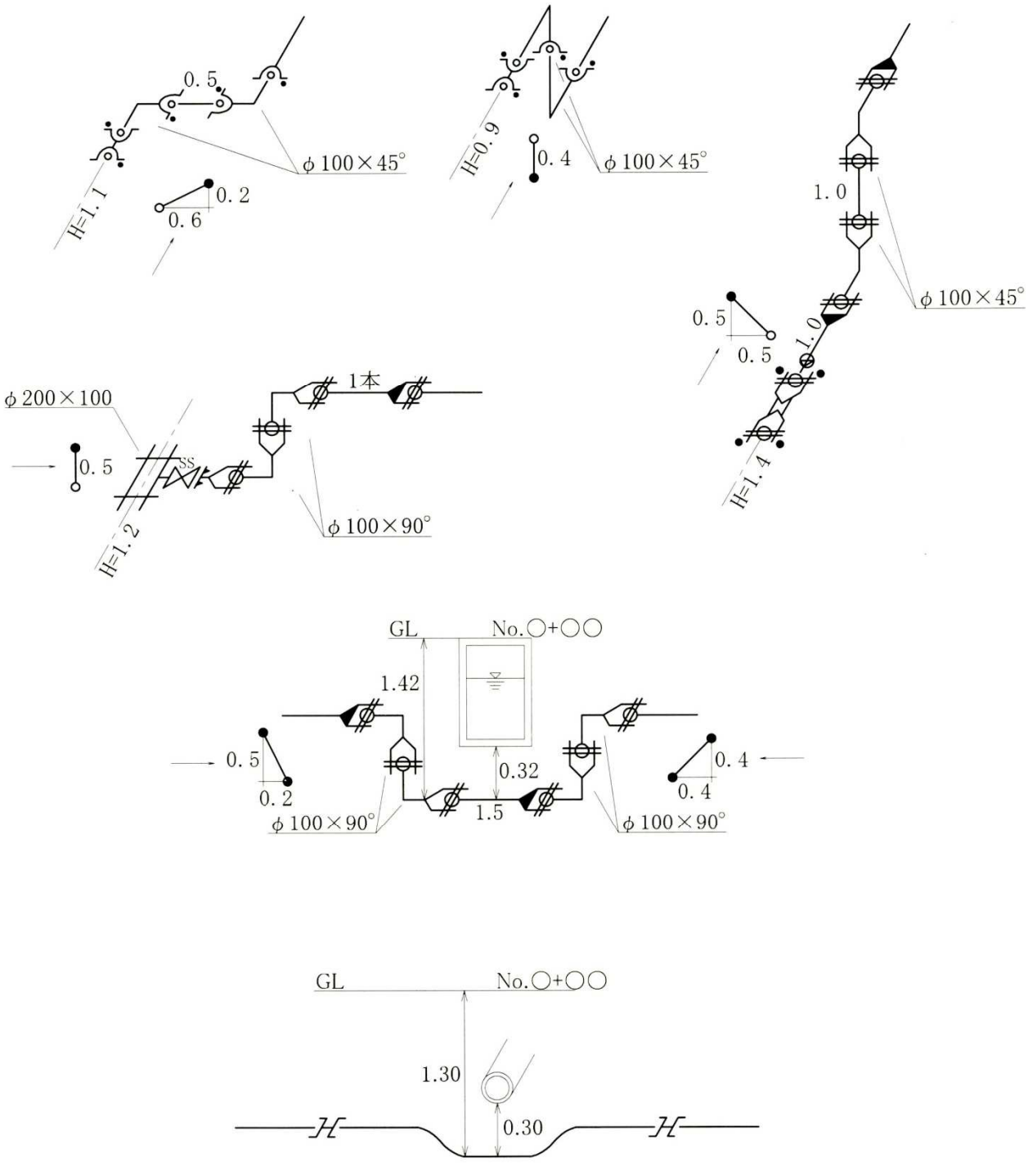
H（高さ変化量）

L（平面距離変化量）

エ　既設地下埋設物等の障害物により、伏越しや法線の変化が生じる箇所は、黒板に障害物の略図を記載し、障害物との離隔距離（クリアランス）を測定すること。

オ　ポリエチレン管を既設地下埋設物等の障害物をかわすために曲げ配管により 30cm以上高さを変化させた場合は、その位置と土被りを配管立体図に記入すること。（図 5-1 参照）

図 5-1　法線変化記号の表示（例）



(8)　オフセット図

ア　工事完了後、次の箇所を速やかに測定し、オフセット図を作成すること。

ａ　仕切弁・空気弁・地下式消火栓

ｂ　不断水分岐箇所

ｃ　管の末端部

ｄ　排水管の吐き出し部

ｅ　仕切弁を設置しないで既設管に接続した箇所

ｆ　監督員に指示された箇所

イ　オフセットの基点は、永年埋設、撤去のおそれのない境界の角、マンホール、電柱等 3 点以上の引照点を定めること。特に、そのうち 2 点は、積雪により不明にならないものとする。

ウ　アであげた箇所同士が近接している場合は、その箇所同士の距離を測定しオフセット図に記入すること。ただし、イであげる引照点には含まないものとする。

エ　オフセット図は、目標となる家屋が表示できる大きさとし、平面距離の他、口径及び埋設位置（基点となるものからの寸法）を必ず記入すること。

オ　オフセット図と平面図に索引番号（ａ、ｂ、･･･）を付し、対比できるようにすること。

(9)　給水管切替詳細図

ア　平面図には、サドル付分水栓の位置がわかるように仕切弁等管路上にあるものを基点として、各分水栓の距離を記入すること。また、居住者名とメーター口径を記入すること。

イ　配管立体図は、分岐口径、切管長、既設給水管の管種・口径、土被りを記入し、配管状況が詳細にわかるように表示すること。

(10)　工事数量表

管の布設延長及び仕切弁設置数等の数量をまとめ、図面に記入すること。

（表 5-2 参照）

表 5-2　工事数量表（記入例）

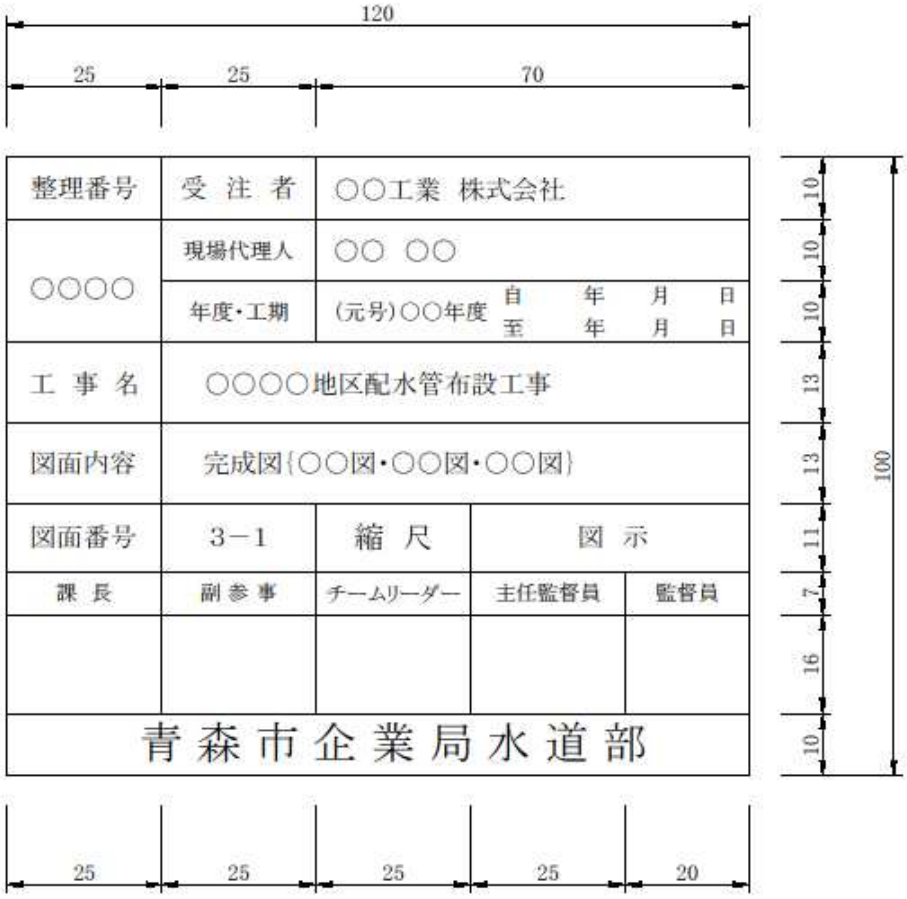
工種		管種・口径	単位	数量	備考
布設	配水管	DGXE　φ150	m	241	
	〃	DKE　φ150	〃	5	
	〃	DGXE　φ100	〃	7	
	〃	PP　φ50	〃	7	
設置	仕切弁	GX形ソフト両受　φ150　10k	基	1	
	〃	SS弁　φ150　7.5k	〃	3	
	〃	SS弁　φ100　7.5k	〃	1	
	〃	SS弁　φ75　7.5k	〃	2	消火栓用1基 排水用1基
	〃	SS弁（V・Sソフト）　φ50　7.5k	〃	1	

[注 1]数量は小数点以下第 1 位で四捨五入し、単位止めにすること。
[注 2]割 T 字管、ヤノストッパーに仕切弁筐を設置しない場合は、数量表に記載しない。
[注 3]原則、仮設数量は、記載しない。但し、仮設工事の場合は、記載する。

(11)　完成図面における標題

標題欄は、図面の右下隅に設けること。なお、標題欄の上部に受注者欄を設けること。また、決裁欄に変更ある場合は監督員が提示する。

表 5-3　標題（例）



(12)　その他

前記以外の図面を必要とするときは、その図面を作成し提出すること。

5.7　区間距離及び延長

(1)　区間距離は路面実測延長とし、次の箇所を分界点として記入すること。

ア　分岐箇所（十字管、Ｔ字管等）

イ　仕切弁、空気弁、消火栓設置箇所

ウ　口径が変化した箇所

エ　曲管使用箇所（$5\frac{5}{8}°$ 、$11\frac{1}{4}°$ を除く）

オ　その他監督員が指示した箇所

なお、区間距離が複雑な場合は、完成図作成例（別図 5-1～3 参照）で表示するように作成すること。

(2)　布設延長は、区間距離の合計したものを記入すること。（図 5-2・3 参照）

図 5-2　区間距離、布設延長（記入例）

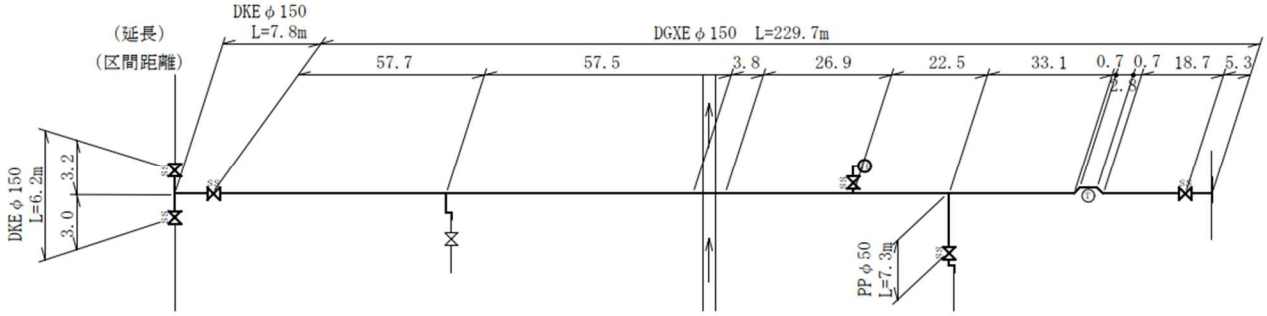


図 5-3　布設及び廃止延長（例１）

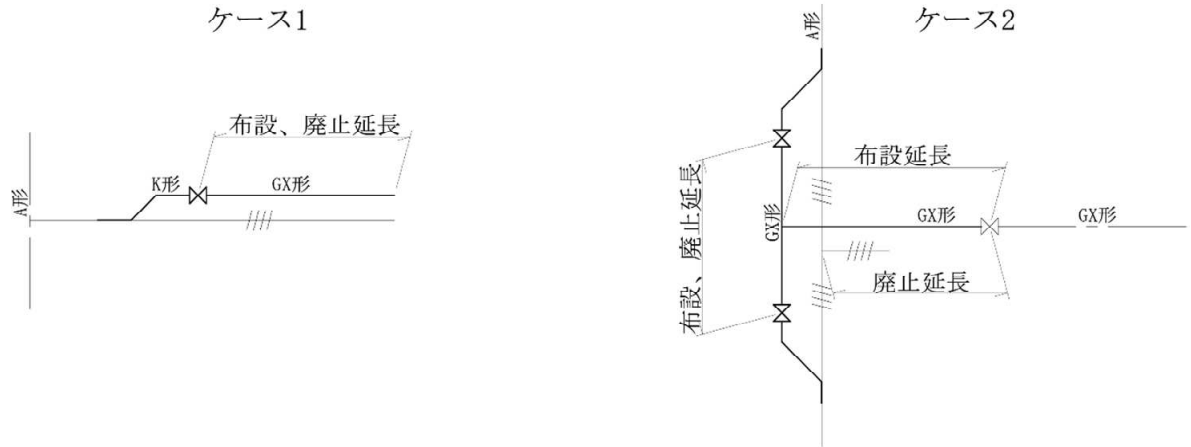
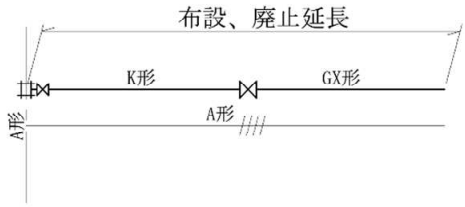
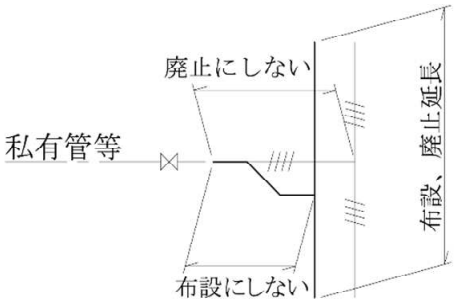


図 5-3　布設及び廃止延長（例 2）

ケース3

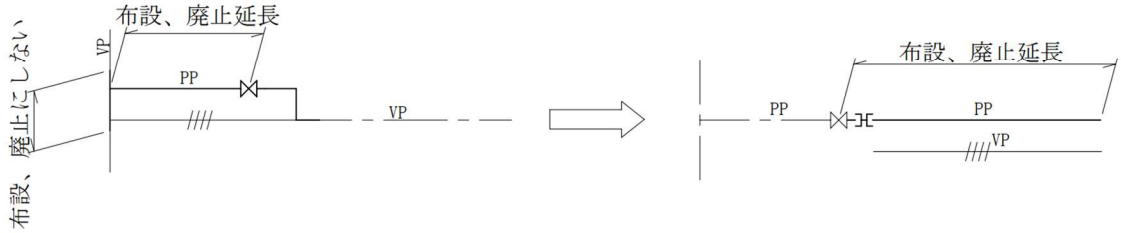


ケース4
（私有管と連絡する場合）



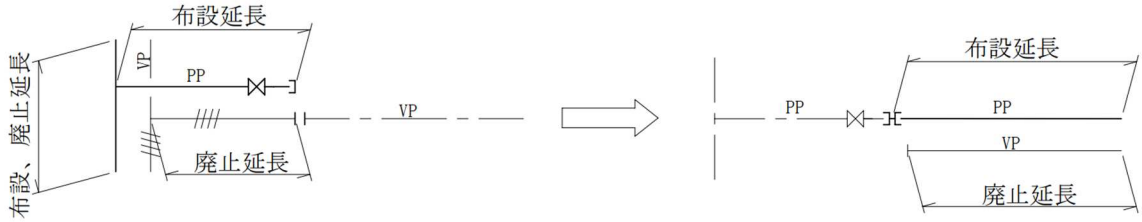
ケース5
（先工事で切替える場合）

先工事　　後工事

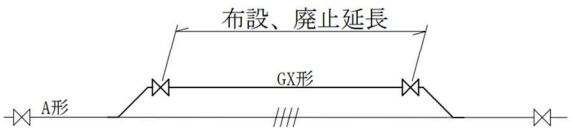


ケース6
（先工事で切替えない場合）

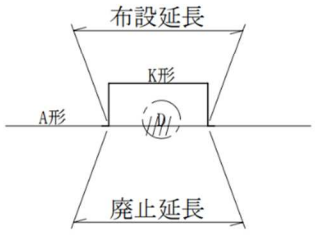
先工事　　後工事



ケース7
（道路工事等により、一部区間を布設替えする場合）



ケース8
（切回工事の場合）



5.8　縮尺

(1)　縮尺は、次の基準によることを原則とする。

ア	案 内 図	1:10,000～20,000
イ	平 面 図	原則として 1:500
ウ	縦断面図	タテ 1:100　ヨコ 1:500～1,000
エ	横断面図	1:50～100
オ	道路復旧図	1:20
カ	側面図、詳細図等	図面内容により、その都度適当な縮尺とする。
キ	配管立体図・オフセット図	略図とする。

(2)　縮尺は、各図ごとにその縮尺を記入し、同一縮尺の場合、標題欄の該当場所に記入すること。

(3)　完成図面は、設計図面の縮尺を用いることを原則とする。

5.9　作図上の表示

(1)　案内図、平面図には、必ず方位を入れること。

(2)　図面は、原則として「北」を上方にすること。

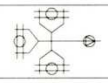
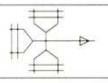
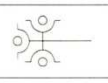
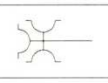
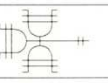
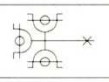
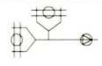
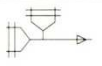
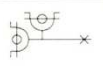
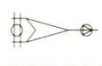
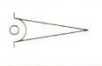
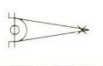
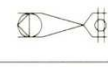
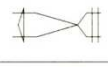
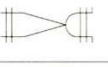
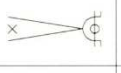
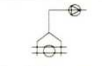
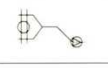
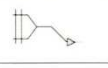
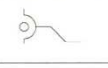
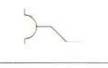
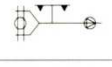
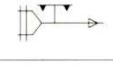
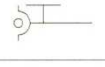
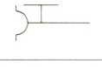
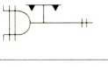
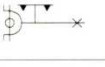
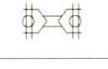
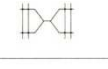
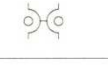
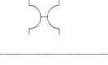
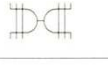
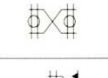
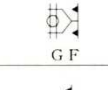
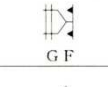
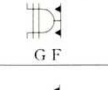
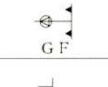
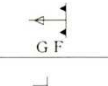
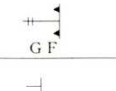
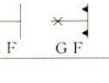
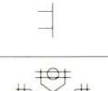
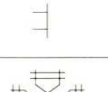
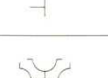
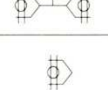
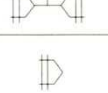
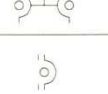
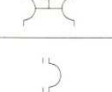
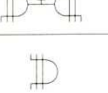
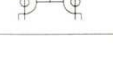
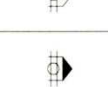
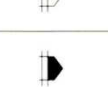
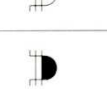
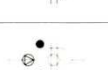
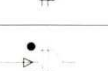
(3)　図示記号は、別表 5-1・5-2・5-3 によること。

(4)　図面の名称等は、その図面上側に表示すること。

配 管 立 体 図 の 表 示

別表5-1

名　称	符　号						備　考
	ダクタイル鋳鉄管（ＤＩＰ）						
	ＧＸ形	ＮＳ形	Ｋ　形	Ａ　形	ＳⅡ形	ＫＦ形	
	ＪＷＷＡ Ｇ １２０	ＪＷＷＡ Ｇ １１３	ＪＩＳ　Ｇ　５５２６				
直　管							切管の場合は寸法を明記

名　称	符　号						備　考
	ダクタイル鋳鉄管（ＤＩＰ）						
	ＧＸ形	ＮＳ形	Ｋ　形	Ａ　形	ＳⅡ形	ＫＦ形	
	ＪＷＷＡ Ｇ １２１	ＪＷＷＡ Ｇ １１４	ＪＩＳ　Ｇ　５５２７				
三受十字管							口径を明記
二受Ｔ字管							口径を明記
受挿し片落管							口径を明記
挿し受片落管							口径を明記
曲　管							口径，角度を明記
乙 字 管							詳細を明記
ﾌﾗﾝｼﾞ付Ｔ字管							口径を明記
継　輪							長尺の場合明記
両受短管							
短管１号	 GF	 GF	RF GF	RF GF	 GF	RF GF	
短管２号	 GF	 GF	RF GF	RF GF	 GF	 RF GF	
栓							
排水Ｔ字管							口径を明記
帽							
ライナ							
Ｇリンク又は継輪用特殊押輪							Ｇリンクのみ名称を明記

※　GX形の挿し口符号（ ）については、配管立体図では表記しないこととするが、継輪と接続する時は表記する。

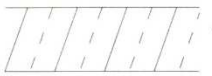
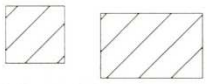
作図上の図示記号

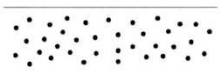
別表5-3

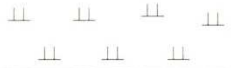
（１）構造物、材料、地類

名　称	電　気　柱	電　話　柱	信　号　柱	街　灯　柱
記　号	○	●	⊘	◒

名　称	電話マンホール	下水道マンホール	電力マンホール	ガ　　ス	通信ケーブル
記　号	Ⓣ	Ⓓ	Ⓔ	Ⓖ	Ⓒ

名　称	石　　材	木　　材	岩　　盤	土
記　号				

名　称	割　栗　石	砕　　石	砂	コンクリート
記　号				

名　称	水　　田	畑	その他の柱	
記　号				

（２）配水管路（導、送水管含む。）

名　称	ダクタイル鋳鉄管
	GX形　内面ｴﾎﾟｷｼ樹脂粉体塗装
記　号	DGXE　　φ○○

ダ　ク　タ　イ　ル　鋳　鉄　管			
DGXE	GX形　内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	DGXL	GX形　内面ﾓﾙﾀﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ
DNSE	NS形　内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	DNSL	NS形　内面ﾓﾙﾀﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ
DKE	K形　内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	DKL	K形　内面ﾓﾙﾀﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ
DSⅡE	SⅡ形　内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	DSⅡL	SⅡ形　内面ﾓﾙﾀﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ
DSE	S形　内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	DSL	S形　内面ﾓﾙﾀﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ
DAE	A形　内面ｴﾎﾟｷｼ粉体塗装	DAL	A形　内面ﾓﾙﾀﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ

名　称	ポリエチレン管	硬質塩化ビニル管	硬質塩化ビニル ライニング鋼管	亜鉛めっき鋼管
記　号	PP　　φ○○	VP　　φ○○	VB SGP－VD　φ○○	GP　　φ○○

名　称	鋳　鉄　管	石綿セメント管	ステンレス管	塗覆装鋼管
記　号	CIP　　φ○○	ACP　　φ○○	SUS　　φ○○	SP　　φ○○

別表5-2

弁・栓類等

名　称	符　号	備　考
仕切弁 (スルースバルブ)		
ソフトシール弁		
K形ソフト		
NS形ソフト (両受け)		
NS形ソフト (受挿し)		
GX形ソフト (両受け)		
GX形ソフト (受挿し)		
バタフライ弁		
ヤノストッパー		詳細を明記
ﾔﾉｽﾄｯﾊﾟｰⅡ型 (250㎜以上)		詳細を明記
ﾔﾉｽﾄｯﾊﾟｰⅡ型 (200㎜以下)		詳細を明記
ｲﾝｻｰﾄﾊﾞﾙﾌﾞ (ﾊﾞﾀﾌﾗｲ弁)		詳細を明記
ｲﾝｻｰﾄﾊﾞﾙﾌﾞ (ソフトシール弁)		詳細を明記
本ﾊﾞﾙﾌﾞ型ﾔﾉｽﾄｯﾊﾟｰ		工法を明記
V・Sソフト		PPの場合コア使用
単口空気弁		詳細を明記
双口空気弁		詳細を明記
地上式単口消火栓		詳細を明記
地上式双口消火栓		詳細を明記
地下式単口消火栓		詳細を明記
逆止め弁		
減圧弁		詳細を明記
流量調節弁		詳細を明記
電磁流量計		詳細を明記
止水栓		
ボール式 サドル分水栓		口径を明記

仮設止水工法

名　称	符　号	備　考
エアパック工法		工法を明記
ストッパーサドル		口径を明記
凍結工法		工法を明記

平　面　図　の　表　示
(配管立体図と異なるもの)

名　称	符　号
単口空気弁	
双口空気弁	
地上式単口消火栓	
地上式双口消火栓	
すべての片落ち	
管末止め	

その他

名　称	符　号	備　考
特殊押輪		特殊割押輪は 明記
補強割金具		補強割金具である ことを明記
フランジ曲管		口径，角度を明記
フランジ短管		口径，寸法を明記
フランジ盲		
伸縮可撓管 (ベローズ形)		詳細を明記
伸縮可撓管 (ボール形)		詳細を明記
割T字管		詳細を明記
VXC短管１号		PPの場合補強コア使用
VXC短管１号 (片落)		口径を明記 PPの場合補強コア使用
VXC短管２号		PPの場合補強コア使用
VXC短管２号 (片落)		口径を明記 PPの場合補強コア使用
VXCジョイント		PPの場合補強コア使用
VXCジョイント (片落)		口径を明記 PPの場合補強コア使用
V・Sジョイント		PPの場合補強コア使用
V・Sジョイント (片落)		口径を明記 PPの場合補強コア使用
V・Sチーズ		口径を明記 PPの場合補強コア使用
V・Sベンド		口径，角度を明記 PPの場合補強コア使用
V・Sキャップ		PPの場合補強コア使用
PP用補強コア		
TSソケット		
TSチーズ		口径を明記
TSエルボ		口径，角度を明記
TSキャップ		
MCスーパーユニオン		
PPソケット		
PPソケット (片落)		口径を明記
PPチーズ		口径を明記
PPエルボ		口径，角度を明記
PP金属継手 (オネジ付)		
PP金属継手 (分・止水栓用)		
PPキャップ		
GPソケット		
GPエルボ		口径，角度を明記
GPプラグ		口径を明記
PXVソケット		
PXVソケット (片落)		口径を明記
PXVエルボ		口径，角度を明記
フクロジョイント		
PPベンド		

名　称	符　号	備　考
TSユニオンソケット		
TSバルブソケット		
サドル分水栓（逆込）		口径を明記

完成図作成例
※赤書きは注意事項

別図5-1

「管種」「口径」「延長」の順で表記する
口径が大きいものを上から並べる

DGXE	φ100	ΣL=258.6m
DKE	φ100	L= 11.1m
PP	φ50	L= 47.1m

実測値（有効長を含める）

平面図 S=1:500

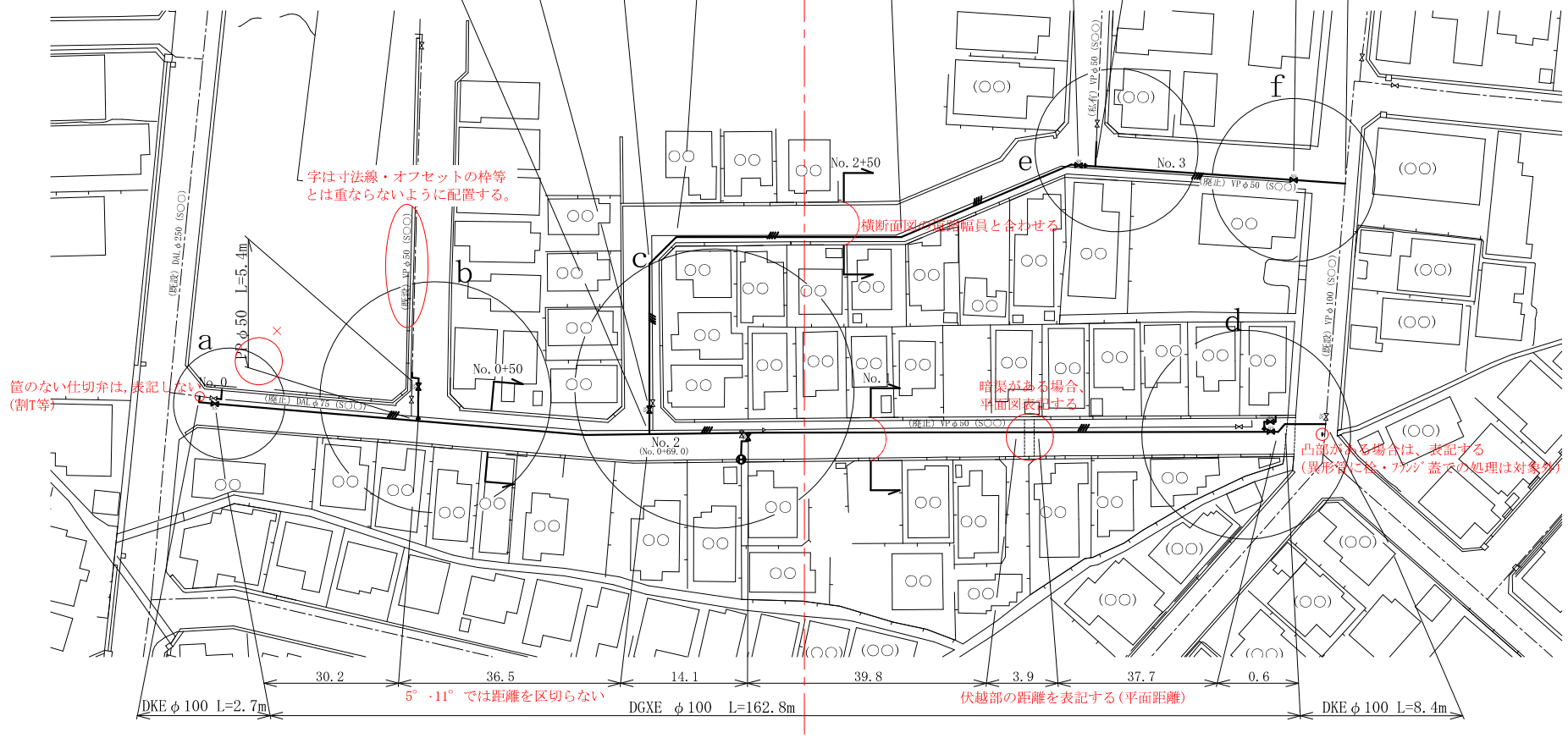
標題は、高さを合わせる

値は寸法線から浮かせ過ぎない

DNSE φ100 L=95.8m　　PP φ50 L=41.7m

4.6 / 23.2 / 4.5 / 36.4 / 26.5 / 3.3 / 30.1 / 8.3

矢印は長すぎず、開きすぎず（4mm、15°）



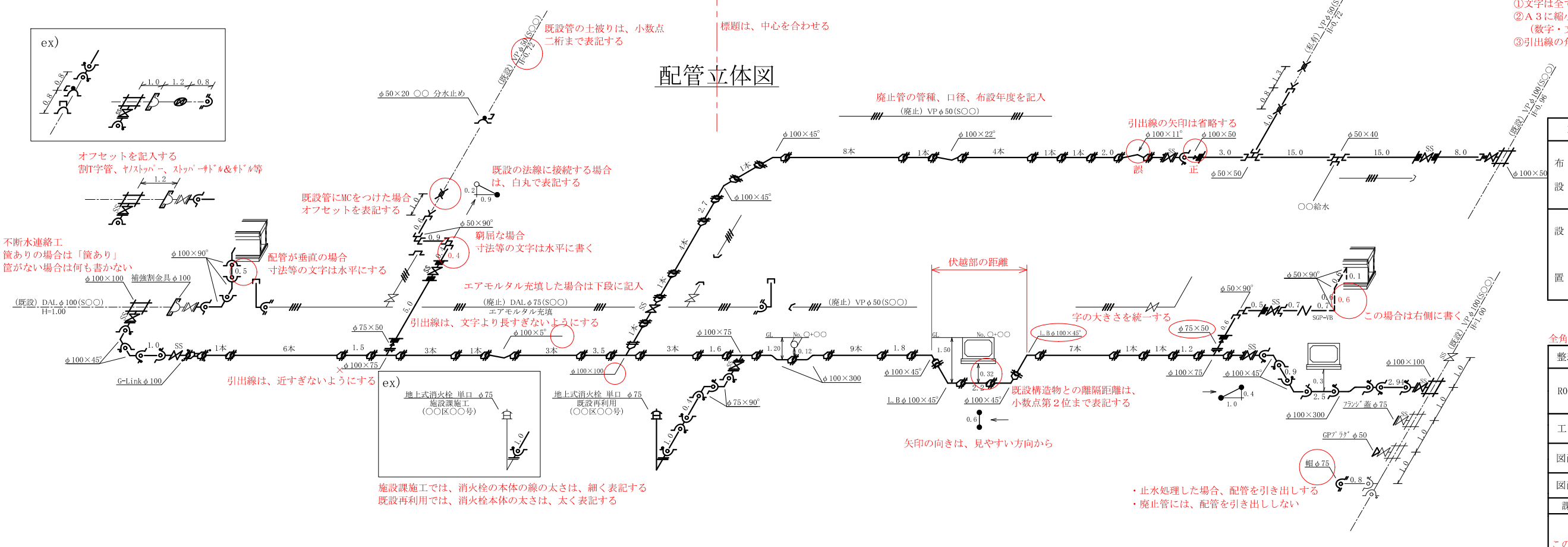
案内図 S=1:10000

【案内図作成の注意点】
①工事場所の線は、細い線で垂直に描く
②背景は細く、布設ラインは太く
（道路幅目一杯）
③工事名にある目安・場所は載せる

【平面図作成の注意点】
①給水連絡工に関係ない建物、配管等は
寸法線・数字に重なるようであれば削除する
②給水連絡工に関係のある建物の表記は　○○
給水連絡工に関係のない建物の表記は　（○○）
※同じ名字が有る場合は、名前まで表記すること ex.○○ △△
③バルブの表記については、新設既設に関わらずSS弁であれば SS を表記する
④廃止管は、どの管とも接続していない状態にする
⑤○○至を表記する（県道・国道のみ）
⑥片落ちマークは、口径を落とす部材を使用しているときに使用する（○○片落ち管等）
※二受け、ﾌﾗﾝｼﾞ付きT字管は対象外
⑦管理点（全管理、土被り管理）については、平面図に表記する
⑧文字と線が重なる場合は、線が文字に被らないよう消す
⑨異形管（22°以上）を使用した場合は、区間を分ける

配管立体図

標題は、中心を合わせる



【共通】
①文字は全て「明朝体」とする
②Ａ３に縮小しても十分に判読できる大きさとする
（数字・文字は、A1で印刷した時に4mm程度。ただし標題は除く）
③引出線の角度は 60° とし、広いスペースの方へ引き出しする

工 事 数 量 表
口径が大きいものを上から並べる

工種		管種・口径	単位	数量	備考
布設	配水管	DGXE φ100	m	259	
〃	〃	DKE φ100	〃	11	整数表記
〃	〃	PP φ50	〃	47	
設置	仕切弁	GX形ソフト受挿 φ100 10k	基	1	
〃	〃	SS弁 φ100 7.5k	〃	3	
〃	〃	SS弁 φ75 7.5k	〃	1	消火栓用
〃	〃	SS弁(Y-Sソフト) φ50 7.5k	〃	3	排水用1基

消火栓用・排水用を表記する
平面図にない仕切弁は表記しない

全角表記とする

整理番号	受注者	○○工業　株式会社	
R0100000	現場代理人	○○　○○	
	年度・工期	令和○年度	自　○年　○月　○日 至　○年　○月　○日
工事名	○○○○地区配水管更新工事		
図面内容	完成図　｛ 案内図・平面図・配管立体図 ｝		
図面番号	３－１	縮尺	図示
課長	副参事	チームリーダー	主任監督員　監督員

｛案内図・平面図・配管立体図
横断面図・道路復旧図・オフセット図｝
この順番に並べること。図面が多くなる場合は適宜調整する。

青森市企業局水道部

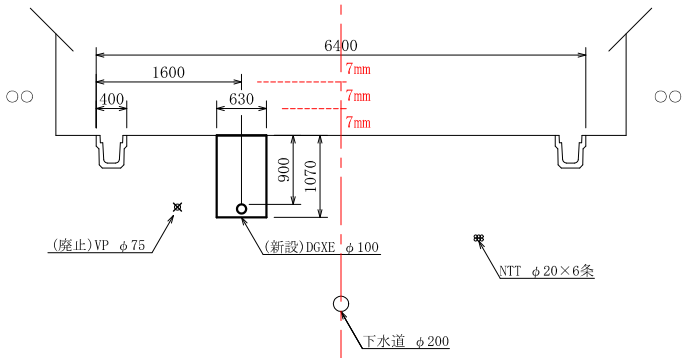
【横断面図作成の注意点】
①載せる断面は、全管理と土被り管理箇所
②掘削範囲、新設管を太くする
③寸法線の間隔は同じにする（A1サイズで印刷したときに７㎜程度）
④寸法値の大きさを統一する
⑤実測値を表記する（工事写真帳の掘削幅、オフセットを確認）
⑥地下埋設物の位置（廃止管等）が平面図と合っているかを確認
　また、深さが施工の際に分かるものについて数値を表記する
⑦○○宅の宅は、表記しない

横断面図 S=1:50

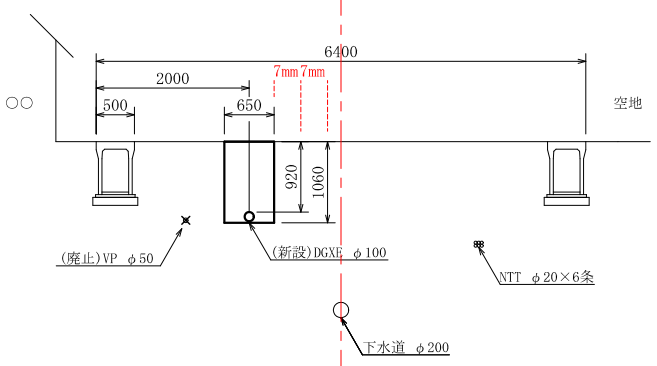
中心を合わせる

数字の若い順から並べる

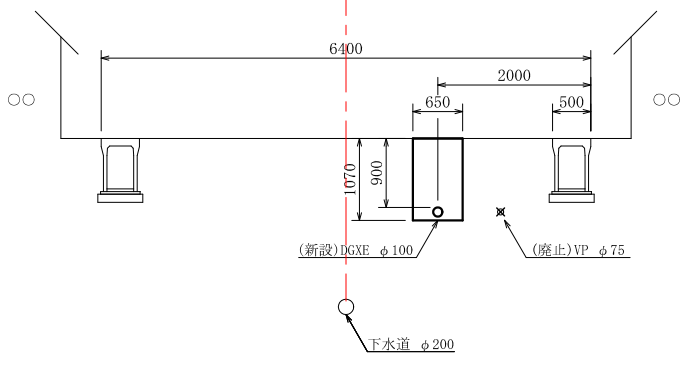
No. 0+50



No. 1



No. 2+50



標題は、高さを合わせる

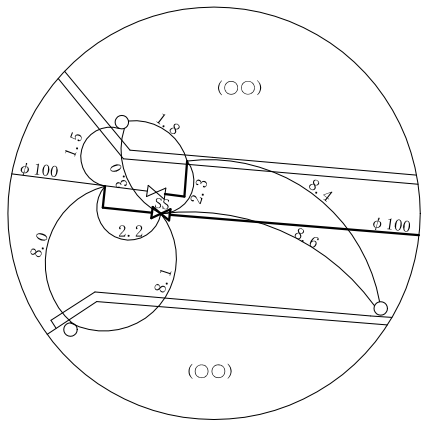
オフセット図

中心を合わせる

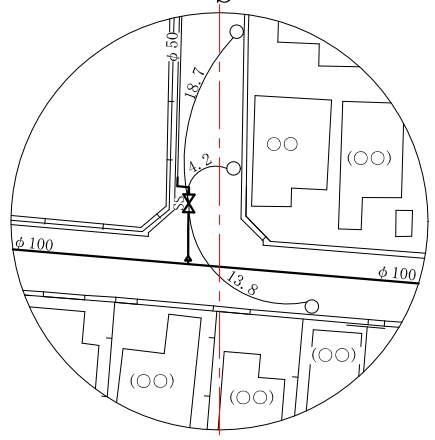
アルファベットのaから並べる

【オフセット図作成の注意点】
①オフセット管理箇所は、仕切弁、排水管出口、私有管との接続箇所等
②下記の円の大きさとする（ｌA3出力したときの大きさを参考とする）
③平面図の円の範囲と合わせる（バルブが密集し、距離が見えずらい場合は縮尺調整する）
④口径（新設・既設）を表記する
⑤オフセットは、原則3測点とする(そのうち2測点は、積雪により不明にならないもの)
　※3測点取れない場合は、側溝との離れを取ることができる
⑥廃止管は、表記しない
⑦文字と線は、重ならないようにする
⑧数字を読む方向は、原則として左→右、下→上とする
⑨SSの表示は、仕切弁が密集し数値が読みづらい場合省略できる
⑩○○宅の宅は、表記しない

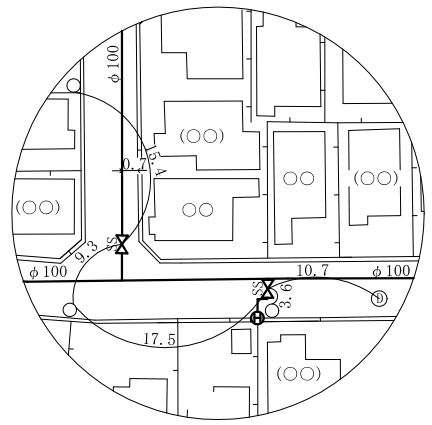
a



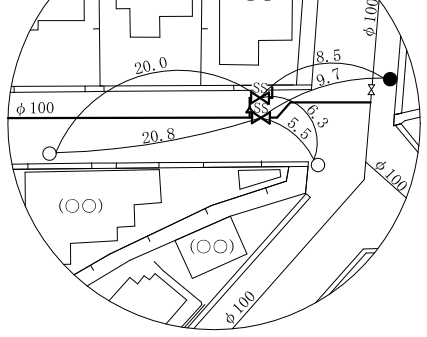
b



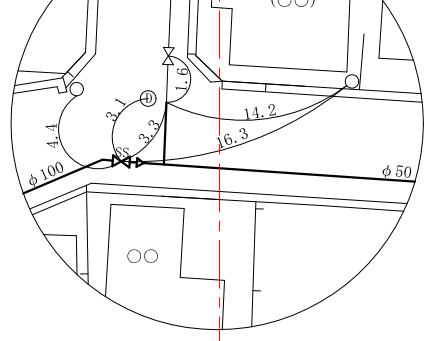
c



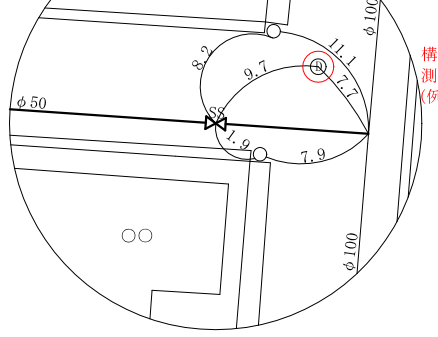
d



e



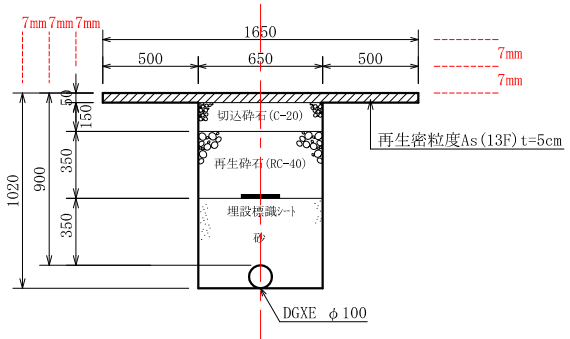
f



構造物から引き出しする際、
測定位置を明確に表記する
(例 マンホールの中心から表記する)

道路復旧図 S=1:20

【道路復旧図作成の注意点】
①外枠と新設管を太く、あとは細くする
②完成図では中心線を削除する

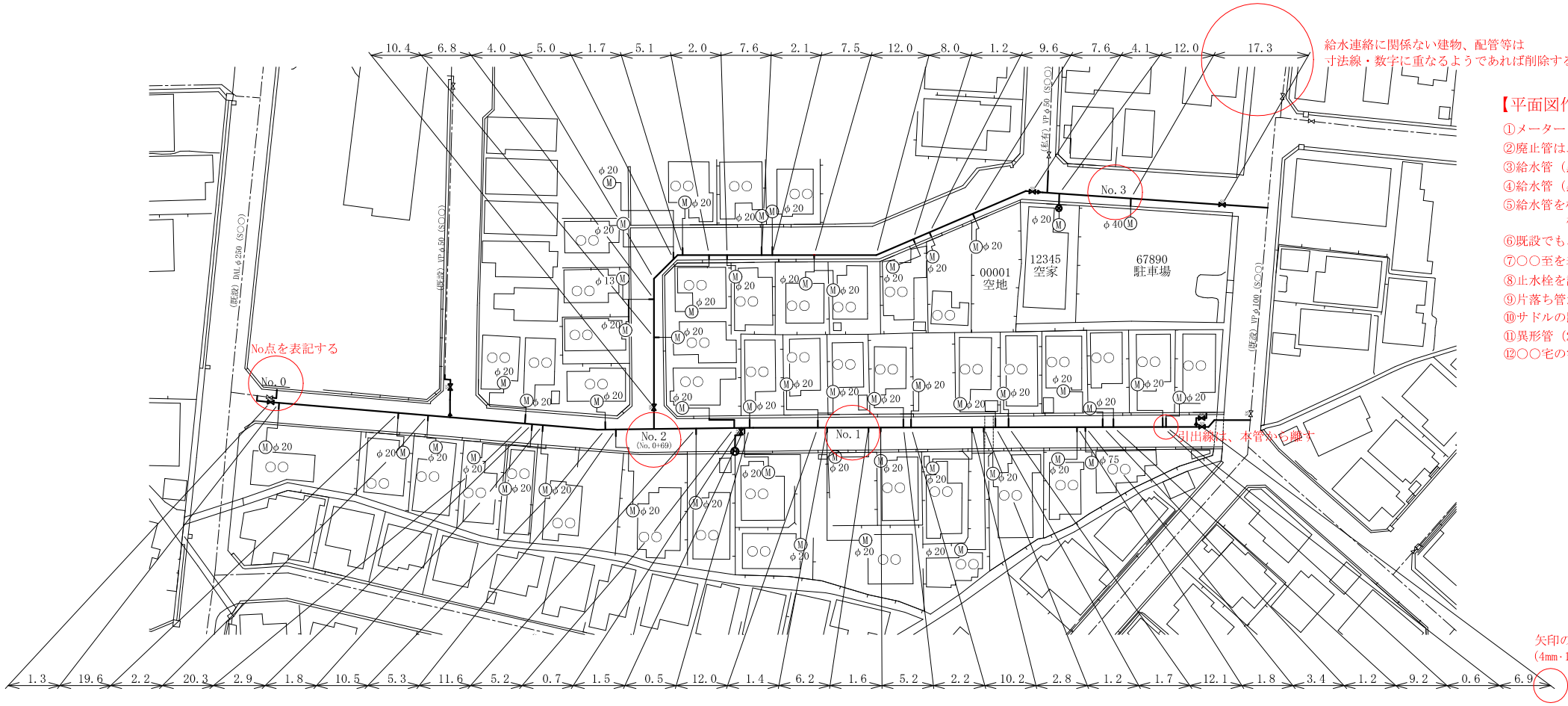


整理番号	受 注 者	○○工業　株式会社		
R0100000	現場代理人	○○　○○		
	年度・工期	令和○年度	自　○年　○月　○日 至　○年　○月　○日	
工 事 名	○○○○地区配水管更新工事			
図面内容	完成図〔 横断面図・道路復旧図・オフセット図 〕			
図面番号	３－２	縮　尺	図　示	
課　長	副参事	ﾁｰﾑﾘｰﾀﾞｰ	主任監督員	監督員

青 森 市 企 業 局 水 道 部

給水管切替詳細図

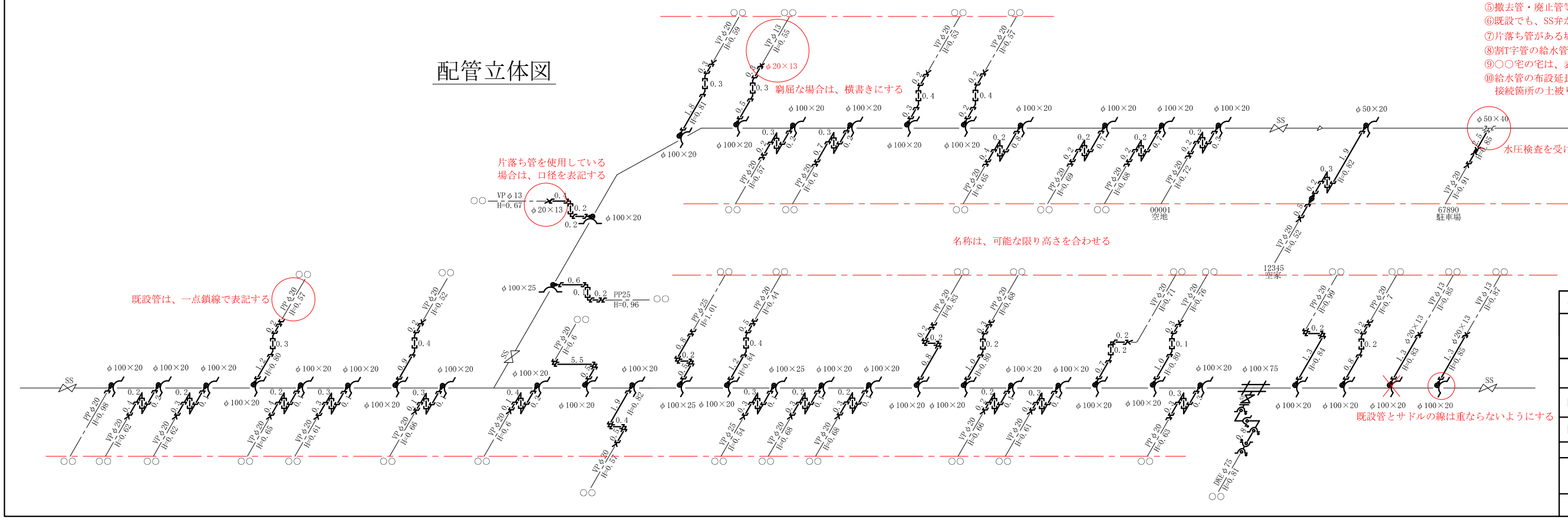
平面図 S=1:500



【平面図作成（給水管切替詳細図）の注意点】

①メーター口径を表記する（メーターボックス内で使用しているメーターの口径を表記）
②廃止管は、表記しない
③給水管（黒太線）は、実際に施工した実距離に合わせる
④給水管（黒細線）の埋設位置は、マッピングの図面を参考とする
⑤給水管を横振り1m未満の場合、平面図は直線にて表記する
　横振り1m以上の場合、平面図は実距離分曲げて表記する
⑥既設でも、SS弁があればSSの表記する
⑦○○至を表記する（県道、国道のみ）
⑧止水栓を設置した家については、止水栓を表記する
⑨片落ち管がある場合は、片落ちマークを表記する
⑩サドルの距離は、仕切弁筐（地表に出ている目標物）からの距離とする
⑪異形管（22°以上）を使用した場合は、区間を分ける
⑫○○宅の宅は、表記しない

配管立体図



【配管立体図作成（給水管切替詳細図）の注意点】

①既設給水管の高さ・接続口径を表記する
②平面図と配管立体図の名前を合わせる
③工事写真帳を参考に配管立体図を表記する
④配管立体図は、出来るだけシンプルにする（引出線は、使用しない）
⑤撤去管・廃止管等は、表記しない
⑥既設でも、SS弁があればSSの表記をする
⑦片落ち管がある場合は、片落ちマークを表記する
⑧割T字管の給水管がある場合は、給水管切替詳細図にのみ表記する
⑨○○宅の宅は、表記しない
⑩給水管の布設延長が、1mを超える場合は道路上での土被りと
　接続箇所の土被りの二点表記する

整理番号	受注者	○○工業　株式会社		
R0100000	現場代理人	○○　○○		
	年度・工期	令和○年度	自　○年　○月　○日 至　○年　○月　○日	
工事名	○○○○地区配水管更新工事			
図面内容	完成図　｛　給水管切替詳細図　｝			
図面番号	3－3	縮尺	図示	
課長	副参事	チームリーダー	主任監督員	監督員

青森市企業局水道部